

# 令和5年度鳥取県における地域日本語教育体制整備事業

## 第2回総合調整会議 議事録

日時 令和6年2月5日（月）13時30分～15時45分

場所 鳥取県庁第二庁舎9階 第21会議室

**松本事務局長**：皆様、本日はお忙しい中お集りいただきありがとうございます。まず、年が明けましてすぐの1月1日に起きました「能登半島地震」の甚大な被害により、多くの犠牲者が生じ、また不便な避難生活を余儀なくされておられますことに心よりお悔みとお見舞いを申し上げます。今なお多くの方々が困難の中にありますが、災害からの復興と生活の再建に向けて私ども一人一人ができる支援を考えてまいりたいと思います。

本日はさる8月31日に開催いたしました第1回会議に続き2回目の総合調整会議となります。各委員のご紹介は出席者名簿をもって代えさせていただきます。

それでは事業主体者であります鳥取県輝く鳥取創造本部観光交流局交流推進課 井嶋泰雄課長よりご挨拶をお願いいたします。

**井嶋 県交流推進課長（委員）**：先回8月になりますけれども、総合調整会議として県内の課題はまだまだもちろん水面下ではあるんですけども、皆様から専門的な視点からのご意見をいただきまして大変有意義な時間となりました。改めてお礼を申し上げたいと思います。

また後ほどご説明申し上げますけれども、鳥取県地域日本語教育推進計画を策定いたしました。正直言いますと、社会状況を考えたときに災害等も想定内、想定外もあります。社会情勢の変化がある中で随時見直しが必要だと思っておりますので、また引き続きこういった議論、社会情勢の変化をとらまえて見直しを行い、使い勝手のいい、使える計画に作り上げていきたいと思っております。それも含めて、本日はご意見の方をよろしくお願ひしたいと思ひます。簡単でございますけれども以上でございます。よろしくお願ひします。

**松本事務局長**：ありがとうございます。それではこれから早速議事を進めてまいりたいと思ひます。座長の御館先生、よろしくお願ひします。

**御館座長**：皆さんこんにちは。第1回に続き今回も、鳥取県における地域日本語教育の体制づくりに向けて実りある協議ができますように、皆様のご協力と闊達なご議論をよろしくお願ひいたします。

それでは早速、議事の（1）令和5年度鳥取県における地域日本語教育体制整備事業の進捗状況について事務局より説明お願ひします。

**岩本総括コーディネーター**：総括コーディネーターの岩本でございます。それでは、2月時点での今年度1年間進めてまいりました体制整備事業の進捗状況についてご説明をさせていただきます。

まず一番初めに総合調整会議の設置でございます。これはこの文化庁の体制整備事業の中で、必須必置の会議ということに位置付けられております。前回、8月31日に第1回総合調整会議、全員の委員の皆様がこの同じ会場にお集まりいただきまして、令和5年度において鳥取県で進めていく地域日本語教育体制整備事業についてのご説明、それから鳥取県内における地域日本語教育の現状と課題について共有をさせていただいた中で、先ほど井嶋課長の方からもお話のございました鳥取県地域日本語教育推進計画のたたき台をお示しし、それについてご意見、ご議論をお願いしました。それをもってですね、この度、県の方で地域日本語教育推進計画を策定いただいたという形になっております。そして本日ですね、2月5日、今年度の事業の進捗状況をご説明し、また来年度に進めてまいります事業計画についてご報告をさせていただく予定としております。

二番目に、こちら体制整備事業において必須の項目になっておりますけれども、総括コーディネーターの配置でございます。私の役割でございますけれども、県の指定する者ということで席は受託事業者である鳥取県国際交流財団に配置され、地域における日本語教育体制整備事業の中核的な役割を果たすようにということでございます。この1年間、文化庁が委託しております「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進のためのコーディネーター研修」を受講しながら、その成果を今年度そして次年度以降の事業に活かすということで、いろいろな研修を受けさせていただいております。勤務の体制は、週30時間で、会計年度職員としての雇用をしていただいております。主な業務でございますが、この委託事業に係る県との連絡調整から事業事務全般及び会計業務を行っております。それから県内における地域日本語教育の現状課題の把握と分析を行って、いかにその取り組みに反映させていくかというようなことをさせていただいております。それからこの調整会議の運営実務全般、それから県内には財団の直営の日本語クラスの他に、今日もおいでになっておられますが、倉吉市日本語教室、境港市日本語教室と独自に市の財源でもって事業をされている様々な日本語教室がございます。また、県内には、いわゆるNPOやボランティアが主体的になさっている地域の日本語教室というのが、今は、ほとんど把握できていない状況でございます。そこは大きく他県と違うところかもしれませんけれども、逆に行政が関わって一生懸命地域日本語教育を進めているところとは、連携をとらせていただきながら、これからそういう場が増えることも大事かもしれませんが、核となる地域日本語教育機関との連携というものを重要視していきたいと思っております。

次が、日本語教育人材の育成と活動支援でございます。こちらはまた後ほどご紹介させていただきますが、今年度初めていわゆる日本語教師としての資格をお持ちの方、それから資格はお持ちではありませんが永年ボランティアとして地域日本語教育に関わってこられている方々を対象にした日本語教育人材の研修を実施いたしました。

それから日本語教育空白地域の解消に向けたプランの作成と実践でございますが、今、鳥取県では鳥取、倉吉、米子、境港の4市には、市のお金か県のお金はともかくとして、日本語教育の場があるということになっておりますが、あと湯梨浜町が、インターンシップの方

向けの日本語教室をしておられますが、あとのところは、いわゆる日本語教育の空白地域ということになります。そういったところに、学びの場というものが保障できるような仕組みをこれから考えていくということで、今年度そして次年度以降ですね、具体的なプランを作って参りたいと考えております。

それから、地域日本語教育コーディネーターの候補者育成支援でございます。鳥取県では県内を東部、中部、西部の3地域に分けまして、それぞれの地域を担当していただいて専門家としての知見をもとに関係機関等との連携をとりながら、実際の日本語教育プログラムを総括コーディネーターとともに編成、実践していくという人材を、今年度は中部と西部につきましては、文化庁の研修を受けていただきながら進めて参りました。東部担当の方は今年ちょっと家庭の事情で研修が難しかったものですから、次年度以降、研修と並行して委嘱をさせていただきますし、中部と西部の担当につきましては、ちょうど明日ですね、最終の冬期研修を終えられて、その成果を見せていただきました後に、令和6年度からの委嘱を現在考えているところでございます。

それから4番目ですが、生活者としての外国人に対する日本語教育人材、日本語教師初任研修の実施というのを実施しております。1月13日から2月17日まで、まだもう1回残っておりますけれども、合計12コマ18時間の、専門教育人材の研修を行いました。1月13日には御館先生に、また、1月21日は中東先生にもお世話になりまして、この2つにつきましては、多文化共生に関心のある方であれば資格を問わない公開講座とさせていただき、全体の受講者としては37名の方にご受講いただきました。そのうち、いわゆる有資格者、またはボランティア経験が長く資格をお持ちではありませんがクラスの指導ができるレベルと見込める方を22名把握することができました。研修をして終わりということではなくて、これはまだ初任のレベルでございますので、この後さらに内容をブラッシュアップさせていきながら、来年度は初任Ⅱというような形で（文化庁の）研修のあり方を参考にしながら、いろんな分野をカバーした研修をさらに来年度以降も続けて、人材の確保に結びつけていきたいと考えております。そして、今回のように研修していただいた方々と、地域日本語教育コーディネーターは緩やかに連携して、これからの課題に向けた研究会や検討会、情報交換会みたいなものを少しずつネットワーク化していきながら、ご一緒に地域の日本語教育を進めていけるような体制づくりをしていきたいと考えております。次のページに、その講座の様子の写真を入れさせていただいております。御館先生、中東先生には会場にお越しいただき、直接会場受講者そしてオンラインでの受講者への講義をお願いいたしました。島根大学の佐藤先生はオンラインですけれども、大変密な研修資料、内容の充実したものを作っていただきまして、もうあと1回になりましたけれども、研修を続けているところでございます。

もう1つですね、やさしい日本語の活用普及のための出前講座を実施いたしました。終了しておりますのが、1月19日に実施いたしました鳥取県警察本部職員を対象としたやさしい日本語研修でございます。こちらは御館先生にご講義をお願いしました。私の方から県

内在住外国人の現状についてさわりのお話をさせていただきました後、本題の「やさしい日本語」について演習も交えた講義をお願いしました。おかげさまで県警本部の方からは次年度以降もぜひというようなお話を伺っております。県警の方は、もちろん内勤の職員の方もいらっしゃるんですが、実際に外の警察署に出られて、例えば実習生のオリエンテーションで生活安全教室みたいなお話をされる機会も多いようございまして、そこでぜひ「やさしい日本語」を活用できるような人材を作っていきたいというようなこともお聞きしておりますので、ご一緒に協力しながらまた進めてまいりたいと思っております。

あと 2 月 14 日に、鳥取看護大学の教職員の方々を対象にした研修を予定しております。こちらは、医療の現場に出ていかれる看護師さんを育成・教育される主に教員の方を対象に、これから医療機関等で外国人对応の事例は本当に出てくると思いますので、少しでも効果が上がりますように、ご興味を持っていただけるような研修になればと思っております。3 番目については現在、介護専門学校と話をしているんですが、日程の方がまだ確定しておりませんで、調整中ということでご報告をさせていただきます。以上でございます。

**御館座長：**ありがとうございます。今のご説明についてご質問やご意見がありましたらお願いいたします。ではまず私から 1 つ、地域日本語教育コーディネーターの東部の方は、一応その人選というのはもうできているということでしょうか。

**岩本総括コーディネーター：**、はい、一応候補者は考えておりますけれども、最終的にはまだ確定しておりません。

**御館座長：**他はいかがでしょうか。中東委員には、今回の日本語教育人材の講座もご担当いただきましたけれども、お気づきの点がありましたらお願いします。

**中東委員：**そうですね、1 月 21 日の回を担当させていただいて、ハイブリッドだったので対面の方とそれからオンラインの方がおられたんですけど、やっぱりオンラインの授業って聞きっ放しだとつまらないので、1 時間半のうち、1 時間は講義で 30 分はワークみたいな感じで 2 コマさせていただいたんですね。前半の方は、一応この日本語教育に関わっておられる方ではあるんですが、意外と自分の地域に外国人が何人いるか知らない、自分の県に外国人が何人いるか知らないとか、ましてや全国どのぐらいのか知らないっていう方が結構多いので、基本必ずこういった研修では話をしているんですけど、そのあとで最初の 1 コマ目は、以前、鳥取県で 2009 年ですかね、外国人の住民の方に調査を行ったものがあるというのを岩本さんに教えていただいて、そこの自由記述のところを使わせていただいたんですね。そうすると、例えば外国人の方は、やっぱりこう日本人から差別を受けているように感じるとか、もうちょっとこうして欲しいとかいう要望が書いてあって、もうそれから何年か何十年以上経っている中で、「皆さん、今の鳥取ではどうですか」みたいな話で、こうして、2 コマ目は実際に日本語教室に関わっている中で、最初に岩本さんと打ち合わせをしたときにお尋ねしたら、もうちょっとこれを自分ごととして関わって欲しいというようなことを言われましたので、そういう意味で参考になればと総社市の活動の様子とかの話をしました。どちらのコマも、最初、30 分ぐらいワークの時間を取ってたんですけど、思い

のほか皆さんいっぱいいろいろしゃべられて、ちょっと時間をオーバーしたんですが、皆さんとても熱心で、自分のこととしてとじていただけたことではないかなと思います。まだ受講者の方からどんな意見だったかよくわからないんですが、それなりに手応えがあったかなという感じでした。

**御館座長：**ありがとうございます。そうですね、今回の研修については初めてボランティア対象ではなくて、有資格者の方ですとか、ボランティア歴が長い方にお集まりいただいたのですが、私自身もこんなに有資格者の方が県内にいるってということ自体がすごく驚きまして、本当にそれだけでもこの研修を企画した意義があったなあと思っているところで、境港市さんなんかも、人材がまだまだ必要なところだと思います。割と東・中・西部とまんべんなくいらっしゃってましたので、必要なところにどんどんこれから派遣なり連携なりしてご活躍いただけるとすごくいいかなというふうに思っています。他はいかがでしょうか。

「やさしい日本語」の研修について 6 ページに県警察本部でさせていただいた写真とかあるんですけども、一番下の右側の写真ですね、災害が起きて配水車で水を配るという案内をやさしい日本語にさせていただいてるところですけれども、ちょっと時間が短かったんですけれども、すごく熱心に取り組んでいただいて、実際にずいぶんとやさしい日本語になっているなというふうに思ひまして、今後活用いただけるのかなというふうには思いました。これからいろいろな場面で必要となってくると思いますので、なるべく、毎年続けていければいいかなというふうに感じております。

では続いて、令和 6 年度の事業計画についてご説明いただく前に、第 1 回総合調整会議でご審議をいただきました「鳥取県地域日本語教育推進計画」が策定されたということで、最終版を別紙でお手元に配付させていただいております。それでは、鳥取県交流推進課の井嶋課長よりご報告をお願いします。

**井嶋委員：**はい。では、皆さんお手元に A4 縦長で、全部で 10 ページほどでありますけれども、まとめたものでございます。当然、これをもとにいろいろ皆さんで考えていっていただいて、それぞれ役割を共有して行って、実際に本当に現場で使えるようになるのがゴールになりますので、まだまだ緒についたばかりでございまして。簡単に説明させていただきます。内容としましては、まず、策定の背景、まだまだ外国人がじゃあ何人いるのかって把握してらっしゃる人もあれば、まだまだよくわからないということも含めてですね、そういった現状がありますと。一方で、本日、鳥取労働局の最新データもありますけれども、県内ではベトナムの方が多い。引き続いて、ミャンマー、インドネシア、フィリピンが増えております。中国は減少傾向が続いているといった傾向があるというのをまず、皆さんの共通認識として書かせてもらっております。

そういった中で、日本語の指導が必要な児童生徒、お子さんたちは大事な部分でありますといったことの現状。あとそれに伴って市町村の取り組み状況、あと、では何が課題なのかというところ、なかなか目に見えるところと目に見えないところ、見えないところが非常に多いんですけども、そういったものをちょっと書いております。一方で国の動向を付け加え

た上で、やはり課題に対してどう取り組むのかというのが一番大事でありまして、そのために誰が何をするのかといったことを、県でありますとか市町村、それから財団だったり大学、地域の日本語教室といったとカテゴリーに分けてみました。これがすべてではありませんけれども、こういった見方で進めていければなというふうに考えております。これからどんどんやっていく中で、これはそちらだろう、いやこれはうちからっていうことも当然出てきます。その中で、丁寧に話をしていって、こぼれる人がないように、しっかりと行政だったり民間とで手を組んでやっていくということになろうかと思えます。引き続き見直しも進めていきながら、現状に即して、皆様のご議論やご指導を受けながら、いいものに使えるものになっていくようにと思っておりますのでよろしくお願いしたいと思えます。先ほど研修で22名の（有資格者等の）参加があったというところですので、こういったあたりも、じゃあ将来何人こういった人材が必要なのかと。なかなか明確な答えが出る部分じゃありませんけれども、やっぱり目安として毎年これぐらいの人数を育成していくんだというところも共通認識とし、やっぱり教える方がいらっしゃらないといけないと。当然、岡山県の記事も今日ありましたけど、やっぱりボランティアに多くを頼ってという現状がいいのかどうか。もちろんすべてをお金が出せばいいんですけども、お金が出る部分・出ない部分、あと町村による状況の違いといったことも含めてですね、1つ1つ、他県の状況も参考にしながら、じゃあ鳥取県はこんなふうやっていこうよ、という話をしていくきっかけにこの計画を役立てていく。県内に空白地域が出ないようにやっていきたいと思っておりますので引き続きよろしくお願いしたいと思います。また随時見直しをしていきます。まず、令和5年度から5年間、9年度までを目安にして取り組んでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。以上でございます。

**御館座長：**はい。ありがとうございました。策定の段階で表現や体裁の修正はありましたが、議論いただいた内容を踏まえた形にさせていただいております。この推進計画が今後の事業を進めていく指針となりますので、よろしくお願いいたします。では続いて、令和6年度の事業計画について事務局から説明をお願いします。

**鳥取県交流推進課 野村課長補佐：**失礼します。鳥取県交流推進課の野村と申します。座って説明させていただきます。

資料の7ページをご覧ください。事業計画案はご覧の通り5つの柱で構成されておりまして、上から順番にかいつまんでご説明いたします。

一番は「総合調整会議の設置」でございます。内容は、総合調整会議の設置により地域日本語教育の現状把握と課題の整理、また連携体制の構築を行うというものでございます。今年度同様、年2回の開催を予定しております。

二番は「総括コーディネーターの配置」でございます。今年度同様、事業推進の中心的な役割として総括コーディネーターを配置しまして、協力体制の構築、連携を行うというものでございます。また、来年度から、地域日本語教育コーディネーターが配置される関係で、それと連携をしながら各種検討を進めていくということがございます。

三番は「地域日本語教育コーディネーターの配置」でございます。内容ですが県内を3地域に分け、地域日本語教育コーディネーターを配置し、各種養成研修の企画を行うとともに、カリキュラムやプログラムの検討を行うというものでございます。

四番は「生活者としての外国人に対する日本語教育人材研修による教師人材の育成確保」でございます。内容は、日本語教育の専門的な知識を有する人材を育成する研修の令和5年度の研修受講者を対象に、ステップアップ研修を実施するというものでございます。

五番は「やさしい日本語の普及啓発」でございます。こちらが①②と分かれまして、①が「やさしい日本語の啓発研修」でございます。行政機関等の職員を対象とする出前講座の形での研修を今後もやっていくということでございます。1枚めくっていただきまして、8ページでございます。8ページ4行目、②が「やさしい日本語プラットフォームの作成、運営」でございます。こちらにつきましては、さらに9ページをご覧くださいませでしょうか。こちらの方に記載しておりますとおり、やさしい日本語で表記した日本語学習や生活情報などを共有するためのサイトを構築し定着を図ることにより、やさしい日本語の認知・普及につなげるとともに、また外国人側の文化発信の場として、外国人が地域の生活者として受け入れられるというきっかけづくりにもつなげる。そういった狙いのもとでこのプラットフォームの構築を行うというものがこの事業になります。プラットフォームにつきましては、9ページ、下半分のサイトイメージのところ、こういった形、イメージで進めるということでお示しをしております。令和6年度の事業計画案の説明をいたしました。以上でございます。

**御館座長：**ありがとうございました。では今のご説明についてご質問やご意見がありましたらお願いいたします。「やさしい日本語」のプラットフォームについてはグエン委員に多分ご活躍いただくことになるかと思えますけれども、こういうページにしていきたいとかです、何かお考えのことありましたら。

**グエン委員：**失礼します。私外国人として、こういうのはとってもいいと思います。皆さんもご存じだと思いますが、2019年は特定技能1号ができてすぐにコロナ禍になり、大体は2020年から特定技能1号は取得されました。ということは、来年度は5年目の上限を迎える人が出始めます。そのあともみんなは日本に残りたいんですよ。実際、私も問い合わせを受けて、5年目になってから日本にいたいときはどうすればいいんですかと。日本政府は今その政策を進めていますが、試験はどこで受けられますかとか教えてもらいたい。というのは、日本に長くいたいんですよ。特定技能2号に変わったら、当然家族が呼び寄せできます。家族というのは配偶者とか子ども、もし子どもは日本で生まれたら日本語はよくできますが、ベトナムから呼んだら日本語がわからない人がたくさんいます。親も日本語ができない、日本の文化も全然わからない。そういう子どもを学校に行かせたら、当然学校の方も負担になりますね。日本語のサポートとかとっても大変だと思います。ただ、私は今回の資料を読んで、このままだったらベトナムだけでなく、ネパールの方も多し、ミャンマーの方もいらっしゃいます。みんなエンジニアの資格ありますね。技術・人文・国際業務だっ

たら、子どもや家族が呼べます。このままの体制だったら、今は例えば、フィリピンとか中国とかの子どもは学校に行ってますが、（ベトナムやネパール、ミャンマーなどの）新しい国籍だったらどうなるかということです。この中で、私にとってもいいと思うのは、当然日本語教室の情報もあります。教材の紹介もある。これは外国人にはとっても気になることですよ。その目的は何か。日本語能力試験の教材とか、みんなは仕事を得る、就職するためのパスポートになりますね。他は、例えば日本のことを知りたい。私個人的にお正月に七草がゆの写真を撮って投稿したんですよ。すると、他の外国人から「これは日本のなんという食べ物ですかとか、どんなときに食べますか」とか質問があつて私説明したんですよ。説明したとき、パツと思ったのは、他のホームページでも七草がゆの説明はありますが、大事なのは作り方を知りたいんですよ。だから外国人は、例えば子どものために日本に長くいたい。日本人の配偶者も含めて家族のためにいろいろ作りたいんですが、作り方がわからない。それはとっても大事だと思います。私の知っているベトナム人は、お正月や大晦日に神社に入るときの参拝の仕方、例えば、参道は神様の通路ですから真ん中を歩いてはいけないよっていうと、ああなるほど、だから私の願いがかなわなかったんだと。シェア件数は 100 近くだったんです。みんなすごく日本の文化を知りたいということなんです。私たちの文化も日本人に紹介したい。ほかの国のことも紹介したい。このプラットフォームだったら、外国人のコミュニケーションの場所になります。このお知らせのところで私が思ったのは、例えば、もしできたら市町村と連携して、例えば境港で冬のイベントとかがある、それだけ投稿しますね。境港だけ、鳥取だけ、財団が主催する関係するイベントだけ投稿します。他は例えば智頭の人全然どんなイベントがあるかも知らない。知りたいんですよ。私たちは日本で日本人と同じく生活したい。なんて言ったらいいかな、日本の最低賃金はちょっと安い方ですよ。みんなは実際暮らしてみないとわからないんですね。でも最低賃金見たら、もう鳥取は行きたくないと。こんなことがあったら、鳥取はいいところだねえと思ってもらわないといけないと思います。ありがとうございました。

**御館座長：**いやいや、本当にそうですね。これから特定技能 2 号が出てきたりですとか、あとは技術・人文・国際業務の方も多分増えると思いますし、そして技能実習制度が変わって転籍もできるようになるってなったときに、やっぱり賃金だけ見ると、どうしても鳥取は不利になりますけど、例えばこういうページが充実してたくさん情報がもらえとか、何かこう賃金以外の魅力ですよ、そういうところをたくさん発信していくっていうのはすごく重要なことだだと思います。本当に期待したいですね。

**田村委員：**これは県が作られるんですか。この構想も。

**岩本 総括コーディネーター：**はい、フリーのウェブサイトを使って。このサイトを作ろうかなと思っています。

**田村委員：**例えば在住の方が、個人的にここにアクセスすると。

**岩本 総括コーディネーター：**はい。ただ、単純にホームページで待っているだけではなくなので、LINE と連携して LINE 登録をしてもらってそこに更新情報を届けて、サイト



に誘導できるような仕組みを考えております。

**田村委員**：例えば、倉吉の場合は私の方に連絡してもらえれば、日本語教室のメンバーとTori フレンドのメンバーの方に一気に LINE で流せますので。そうすると県がこういうページを作ったので、それにつなげてくださってということがいえるんで、またそういう情報があったら流してもらったら。それから、さっきグエンさんから子どもの学校の件が出たんですけれど、去年の2月に急にベトナムのお子さんが中部の小学校に来るっていうことで、いろいろ財団の方にも相談されて、結局、私が校長や教頭としゃべったんですけれど、もうバイリンガルで暇な外国人なんていませんよと。学校は、ベトナム語と日本語が話せる人を紹介してくださって言うので、そんな通訳ができるような優秀な人で暇な外国人はいないよと。かえって素人の外国人を呼ぶくらいだったら、日本の学校システムを知ってる退職教員を呼んで、言葉がわからなかったら今はタブレットがあるんだから、それと一緒に行動させた方が日本の学校にも慣れる。結局、教員だから、次はこうやって、何月にはこういう行事があって、この教科はどういうものでと見通しがつく。そんなバイリンガルとか贅沢なんか言わないで、暇な退職教員に探したほうがいいよって。結局はそれに近い教員を充てたいです。ちょうど去年9月に学校に行く機会があって、校長と話したらうまくいったという話でしたけど。中国語が堪能な日本人とか単純な話ではなくて、むしろこういう学校というシステムがわかっている人間を入れた方が、今はもう便利な機械をうまく使いながら、結局システムをどう組織として生かすかっていうあたりに重点を置いて人材を探したほうがいいかなあという。皆さん、どこの教育委員会も贅沢な条件で本当に探そうと思っただけじゃないですよ、そんな優秀な人はもうどこかに勤めてます。そんな暇な人はいないですよ。

**御館座長**：はい、ありがとうございます。そうですね、今も外国につながるお子さんの支援ということで各市町村の教育委員会さんでお金を出されて、財団から支援員さんを紹介されたりなどもされていますけども、今はまだ何とかそれでやっていける人数かもしれませんが、今後本当にグエンさんがおっしゃったように、特定技能2号で家族帯同してきたりとかすると、一気にお子さんが増えてくる可能性もありますけれども、そのあたり、安本委員、今後の体制ですとか何かお考えありましたらお願いいたします。

**安本委員**：鳥取市教育委員会の安本です。先ほど、田村委員さんから退職教員をどんどん使えというお話でしたけれども、いるようでいないのが退職教員でございまして、なかなか難しいかなというふうに思っていますが、やっぱりピンポイントで人を探していくのが一番近道だというふうに思っています。鳥取市が当初この外国籍児童の編入学の支援を始めたのが平成26年になりますけれども、当時はフィリピンの方が多くて、フィリピンの方は大体英語なので、英語と日本語をつなげるような支援をすればどうにか生活に馴染んでいくのだろうなあというふうに思っていました。当然、フィリピンの現地語はわからないので、英語で片言でしゃべるんですが、それが年々そういうわけにはいかなくなってですね、言語圏の種類が多様になってきたっていうところをすごく感じています。一番苦勞するのは、日本語で意思疎通ができるまで、その前段の支援がかなり大事ですので、ご報告いただいた研

修会とか人材育成のところ、日本語がしゃべれるようにできるのは日本人でもできるんですけども、その前段を支援しようと思ったらやっぱり母国語を話せる方、母国語がわかって日本語もわかるっていう方をできるだけ幅広く大量に人材育成するってことが大事だなのではないかなというふうに思っているところです。本市も今年度は14人の児童生徒に活用しています。その中にイスラエルの方が避難をしてこられまして、急遽対応したところですが、これはたまたま英語がしゃべれる方ということで対応ができたんですけど、やっぱり臨機応変な対応っていうのは今後もずっと必要なのではないかなというふうに思っているところでございます。

**田村委員：**そうなってくると、母語話者っていうのをきちんと自治体なりが持つとかなないと、今、安本さんが言われたように、急にここの国の人間が来たから、まず日本語生活の前段をやってくれて言われたら、それは私らがいくら教員でもできないです。やっぱり子育てがすんだような母語話者をリスト化していかないと。それこそ、急にたまたま英語が話せる方が来たからよかったものの、ミャンマーやパキスタンの言葉とかそんなのが来たら全然わからないんで、ある程度、県内であればちょっと悪いけど1週間に1回ぐらいっていうような話に乗ってもらえるような人をリスト化しておかないとこれから大変だと思いますね。

**安本委員：**田村委員さんがおっしゃるように、やっぱり人が、それに対応する人がいないといけないということではありますが、実はかなり便利な世の中になってきてましてですね、AI等が大分発達していますので、そういった技術を上手に使いながら母国語に対応したい。その橋渡しをしながら日本語との部分を繋いでいくってことはできるのかなと思います。人を増やすのとそういった技術的な部分のサポートシステムっていうのを作っていく必要があると思ってます。市役所の方も割とそういうシステムを幅広く今導入しつつありまして、初期の対応の方は少しずつですけど前進したのかなというふうに思っているところでございます。

**御館座長：**ありがとうございます。私、今お話を伺ってますと、3種類の支援といいますか一番最初のところの相手がわかる言語でということと、あとは日本語の支援、さらに進んでいくと教科支援っていうところ、3段階あるのかなっていう印象を受けました。言語の、多言語での支援は今、安本委員おっしゃったようにIT技術も使いながらっていうところ、人材もちろん必要ですけども、そういった点で補っていくというところですね。あとは、特に子どもに対する日本語の支援はこの5ヵ年の計画の中でも子どもに特化した支援者の養成もされていくっていうところもあるかなというふうに思います。あとはその教科につながるっていう意味では、やはり田村委員おっしゃったように退職教員の方の活用も非常に重要になっていくのかなというところではありますので、そのあたりを複合的に考えていく必要があるのかなというふうに思います。ありがとうございます。その他はいかがでしょうか。

**中東委員：**すいません、ちょっと今の話と関わると思うんですけど、やさしい日本語の普及活用のところが、行政職員に結構特化して書かれていて、それが必要なんですけど、もっと

市民に広げるべきだなんていうふうなのは、何か第1回の会議のときにもちょっと感じたんですね。可能かどうかかわからないですけど、岡山市は公民館がすごく充実していて、他の自治体とちょっと違って、37 中学校区があるんですけど、それぞれに一人一人専門の社会教育の資格を持った職員さんがいらっしゃるんですよね。だから公民館の活動っていうのは割と活発なんですけど、一時期、高齢者対策みたいな感じで公民館の活動を行っていた時期があったんですが、いよいよなんかそれも先細って、じゃあどうしますかって時に、外国人を公民館に呼ぼうっていうので、それでSDGsの関係もあって4年ぐらい前ですかね、いろいろ活動する中でやさしい日本語の研修をずっと何人かで担当して、私もまだ3ヶ所か4ヶ所ぐらいなんですけど回っています。ちょうど昨日、ある公民館でやってきたときに、必ず私の場合は、1時間は座学で1時間は外国人の交流という形で、やさしい日本語の簡単な概要とかを学んだ後に、実際に外国人と話してみようみたいな形で必ずセットでやるんですね。そうすると、皆さんの反応は「ちょっと工夫しただけでこんなに日本語って通じるんだ」という感想がほとんどで、外国人にもどうでしたかって聞いたら、「自分の大学の先生の日本語は全然わからない。でも先生の今日の話と、今日の日本人の皆さんのやさしい日本語はとても良くわかった。一生懸命自分たちのためにやさしい日本語で話してくれるその努力をする姿に感動した」と、何かね、とてもいい会だったわけですよ。確かに行政職員の方も必要なんですけど、どちらかというたくさん数を増やしてという意味では、市民向けの講座を是非考えていただけたらありがたいというのが1つと、もう1つは、じゃあどこでやるかって言ったときに、例えば今岡山市も、新しい日本語教室、空白地域がありますので新しい日本語教室をモデル事業としてやろうとしてるんですけども、いきなり日本語教室はハードルが高すぎるんですよね。もうみんなが構えてしまう。それで、今のところというか少なくとも私の案としてはいきなり（モデル教室を）やるんじゃなくて、まずプレ教室をやると。その際に、まずは「やさしい日本語」の講座で日本人と外国人をつなぐ場を作り、そのあと、もうちょっと段階的に日本語教室を作っていくっていう構想を考えていて、そうしないと、鳥取の方でも似たようなところがあるかもしれないんですけど、岡山の人にも慣れてないんですね、外国人に対して。とにかくやさしい日本語を学びました、はい終わりで今までずっと来ていて、過去にもやってるんですけどね講座を。だけどなかなか実践につなげられなくて、なんかやっぱり外国人の人を目の前にするとカチコチになっちゃうわけですよ。もうそういうのをいっぱい見てきましたから、私は。だから、そうじゃなくって、今、目の前にいる人にどう話したらいいか、それをすぐやる。それを繰り返すことで、非常に市民の間に浸透していくので、何かそういう形の市民啓発にもうちょっと力を入れたらいいかな。そうすると、例えば学校での対応は学校でやっていただくのはいいんですけど、実際はもう24時間ですよ、子どもさんがおられたら。病気になったとか何かあったとか、そういったときに、やっぱりちょっと隣の人に話を聞いてもらったらとか、なんかそういう仕組みを作る上では、やっぱり行政職員だけでは全然足りないかなって正直思うところです。岡山市は両方やってるんですよね、行政は行政でやる、市民は市

民でやるっていう形で。やってもなかなかやっぱり難しくて、だからもうちょちょこやるしかないので、ちょっと二本柱ぐらいで少し加えていただけたらいいのかなという気はしました。

**御館座長**：はい、ありがとうございます。より、広く裾野を広げるということですよね。境港市では割とそんな感じで始めたっていう経緯もありますけれども。

**本角委員**：まさに今言われた通りの感じで、初めて日本語クラスを始めるときに、ボランティアしませんかって言っても多分人が来ないだろうと。コーディネートしてもらっていた民間の方もボランティアなんか募集しても全然来ないよって言われて。ちょうどその頃から技能実習生の交流会はしていたので、その前段に御館先生にミニ講座を9時から1時間ぐらいでしてもらって、そのあとにそのまま10時から交流会になだれこむという作戦で。それで、今度は日本語クラスやるのでみんな来てくださいね、こんな感じでやってきました。最初の「やさしい日本語」の講座のときに30人ぐらい申し込みがあって、そのままボランティアにも20人ぐらい申し込みがあったんですね。その後ちょっと先細ってはいるんですけども、その頃に申し込んでくださった方が今も何人か続けてくださっていることを思うとちょっと入りやすいのかな。実際、実習生と話すとある程度日本語ができる方が多いので、それこそ案外何か話してみると話せるかっていうので入ってきていただいた方もいらっしゃいます。ただ、市民向けの講座をしていただくのは大変嬉しいんですけども、これが人がなかなか集まらなくてですね、毎年3回ぐらいするんですけども。ボランティア講座っていう名前で最初は始めたんですけど、それだとやっぱりちょっと敷居が高いかなって去年から外国人とのコミュニケーション講座っていう名前にして、その中でやさしい日本語だったり先生にいろいろな話もしてもらったりするんですけど、それがちょっとなかなかねえ、敷居が高いみたいで集まらなくてですね。

**中東委員**：どうして敷居が高いんだろう。

**本角委員**：外国人とのコミュニケーションなんか多分関係ないわって思っちゃうのかどうかかわからないんですけど、やると評判はいいんです。皆さんすごいためになったって言うんですけど、いつも（受講者は）10人にはならないぐらい。御館先生のときも6人ぐらい。先週の土曜日もしまね（国際センター）の仙田課長にお願いときは、6人の予定が1人欠席がでて。ただ、少ないからこそ皆さんすごく熱心で盛り上がることは盛り上がるんですけど、なんかせっかくなのにもったいないなっていう感想もいただくぐらいなんですけど、入るところがどうしても難しいんで、そのあたりは何か。

**井嶋委員**：最後は市民のあいだに広げていくのがいいわけですが、まず県内の行政職員からということで、境港市さんみたいに必要があって動いてる市町村もあれば、うちには外国人なんかおらんよ、来てから考えるわというところもあったり温度差があるので、まずは行政職員の中に自分ごととして考えていくこと、業務として考えてもらうっていうのもまずはあっていいのかな。おっしゃるように、市民が集まる場所を利用して、公民館だったり、例えば、前回もあった子ども食堂とかそういうところは裾野が広いので外国籍のお子さん

なんかひろいやすいところで、情報収集だったり情報提供であったりできれば。そのためにはまず行政職員を伸ばしていく必要があるんで、今はまず行政職員にちょっと強化してこうと。ただご提案がありましたので、市町村と並行して同時に市民向けにもというところも模索をしていきたいと思ってます。やっぱり、なかなか私自身も目の前に外国人がいると緊張はするんですけども、日本にいるから多分何とかなってるんですよ。ただ、これが外国にいたら、とてもじゃないけどやっていけないので何とかして頑張ろうと思うんですけど。前回もありましたが、日本人が外国人を受け入れる意識の啓発、いかにしてそういう日本人に気持ちを持ってもらうかと言うのは、ちょっとしたゲーム形式でやるのがいいのか研修でやるのがいいのかわかりませんが、今おっしゃったように研修の機会を設けてもなかなか入ってこない。でも入ってくるとよかったと、いかに敷居を越えさせるかって工夫は我々の業務としてあるのかなっていうのは今感じてます。

**本角委員：**それで、募集するとなかなか来ないので、すでにある会に研修という名のもとにそこに突っ込むぐらいな感じで。

**井嶋委員：**オプションみたいに加えてね、はい。

**本角委員：**うちには、公民館が7、8地区あってその公民館の活動発表会みたいなのが年に1回各公民館が当番持ち回りであるらしいんですね。それが今回はいつもうちの国際交流員を活用してくださっている公民館が担当で、料理教室とかいろんなところで交流しているその活動を報告してくださって、全部の公民館の公民館運営審議会の皆さんがこられる何十人もきてるところでその活動を発表していただいて、国際交流員もその場で活動を発表させていただいた関係で、もうみんなに聞いてもらえますよね、もう当たり前前に集まっているので。そういうもう義務的でもいいので集まっている場で聞いてもらえる機会があれば一番いいのかなあという気はします。

**中東委員：**なんか岡山までもそういうところあって、今までもかなり前からやってるんですけど、全然広がらないっていうのと、あと、きっかけは公民館推進室って公民館の中心になっているところからのご依頼ではあったんですけど、それでもやっぱり公民館も温度差があって、岡山市の中心部、岡山大学とか留学生が多い地区は人も多い。今問題になっているのは人がちょっと少ない南区で、ここは技能実習生が多くて、技能実習生の暴行事件が起こった地域なんですね。やっぱりその地域ではまちづくり自体がうまくいってないので、そもそも難しいんですけど、だから昨日やったところも必死でかき集めてもらって、もう命令のようにして。あと日本人も来てくださって言ったんだけどやっぱり来ないところが多いので、地区の町内会長を説得するところから始めて、学校の先生を呼び、もうそれは作為的にやって、外国人も本当は地区の方に来てもらいたいけど、まだそこはできていないので、日本語学校の留学生とか岡大の留学生とかとりあえず集めてもらって、もうそれはそれでいいと思うんですよ。とにかく人が集まらないっていうのはわからないわけではないけれども、それなりに岡山市もそうやってこう増やしてきた。行政職員も大事なんですけどね。実際の市民活動とか市民と関わる人たちを、いろんなところで同時並行してやっていかないと

間に合わないんですよ。今ちょっと伺ってて思ったのは、これはもう時間的に間に合わないなっていう感じでした。ですので、人数が集まらないっていうのも、おそらくまだ情報が伝わってないってことだし、ここには外国人がいないから関係ないってのは岡山市も同じなんですね。本当に周辺部っていうのはまさにそういう感覚で、一応、公民館の推進室がお説教をしてやりなさいよっていう形で、今度頼まれたのはその推進室でもう1回話して欲しいと、つまり公民館職員の再教育、もう2回目です今度。だからやっぱりそれはもう時間かけてやるしかない。だから、行政職員は行政職員で毎年やって、もう2回ぐらいあるけど、間に合わないの。やっぱりそれをしないと、とても間に合わないかなっていう感じはします。人が集まったらいいですね、もったいないし寂しいよね。

**本角委員**：以前、職員研修でもやったことがあるんですけど、職員研修なので皆さん当然来るんですけど、(感想で)「よかった」が100%っていう伝説的な職員研修になって、100%ってなかなかないんですけど。でもやっぱり(市民向けに)集めるとなかなか集まらないっていうのはあるのでちょっともったいないなと思うんですよ。公民館とかチラシ配ったりするんですけどね。

**井嶋委員**：大体便乗して、普段はこういう会合だけでも今日こういうのがありますよって言った方が、確かにうまいなあと思いますね。

**本角委員**：興味が無い人にも聞いてもらえるという。

**田村委員**：私、(倉吉市)成徳地区公民館の同和教育推進会長やってるんですけど、実は前に成徳地区に来ている外国人の方に一度料理教室してもらおうかっていう話は言ってたんですよ。私の忙しさもあるし、公民館の忙しさもあるしで、そのうちコロナが入ってしまって集会活動が全部できなくなったんで、ちょっとその話は立ち消えになってしまったんですけど。ただ、今、落ち着いてきたので、来年度も会長やってたら、公民館もコミュニティセンターになってセンター自体も忙しくなって、どこまで余裕があるかわかんないんですけど、またちょっとそれを。あと、うちの日本語教室が何とか続いているっていうのは、Tori フレンド時代からこういう研修会をやっていたり、小難しいことを随分やっていたみたいで、たまに料理教室、料理文化教室って言いますか、仲間内の食文化交流会をやっていたメンバーがそのまま日本語教室に流れて、今、代替わりっていうかもう新しい人の方が多くなって、もう日本語サポーターの方も全く別の人間が入ってきて、ほとんどは教員で、電話して夜の2時間だけでいいからということで、手伝ってもらったりしてますけど。ただその人たちに賃金は出ないので、いつも図書カードを(お礼として)配ってますけど、やはり0円で働いてくれるっていうのは、これは酷な話になる。悪いけどこのカードで勘弁してっていう。私の場合は、Tori フレンドと日本語教室両方に久々のバーベキュー大会をしますとかって流すと友だちを呼んでくるんですよ。そこでこういう日本語教室もありますということ連絡すると、今度は職場の友だちも来るという。いいのか悪いのかサポーターが今度は足りなくなるということになってきてしまって、今、サポーターをどうやって確保するかというふうになっちゃってるんですけど、イベントを考えるっていうのも一つかなあって、そこ

でこういう紹介をするということもあつたりで、時々町内学習会に出たときに倉吉の外国人の事情だとかしゃべったり、小学校にゲストで出たときにしゃべったりっていうことで倉吉でこういう日本語教室やってますっていうと、「そうなんですか、そこまで外国の人っているんですか」っていう。結局、職場とかで接してる人はわかるけど、普段ここで生活している人っていうのは、あんまりわかんないんじゃないかなと思います。特にフィリピンとか、ベトナムだとかっていうのは顔かたちが一緒なので、買い物をしてても言葉を発しない限り外国人だとわかんない。だから、普段すれ違ってるはずなんだけど、言葉が出ない限りわからないんで、多分、多くの人が気が付いてない。

**中東委員：**日本語教室でやさしい日本語の講座をするってのがあって、私は毎年大阪府堺市国際課に呼ばれて4年ぐらいやさしい日本語の講座するんですけど、話を聞いてみると、あそこは市内に17ヶ所ぐらい日本教室があるらしいんですよね。すごいですよ。やっぱり伺うと、日本語教室はしていても結構難しい日本語でしゃべってる人がいて、自分の日本語が通じてないことがわかってない人もいるんで、あえて日本語教室でやさしい日本語の講座を関係者に来ていただいてするんですよね。そうするとものすごい人気が高くて、いつも抽選なんですよ。30人定員のところに、もう5、60人来るので、外国人も来たいというので抽選制で、人口が多いのでそれは当たり前なんですけど、後で聞いてみると、日本語教室では意外と話をしないと。つまり日本語を教えるんだけど、何かこう教室の日本語みたいな感じで、あんまりその人のことを聞いたりとか一緒にこういうの好きなんだとか話せない。だからそういう意味で、いきなり市民はちょっと難しいので、とりあえず日本語教室に来ている日本人に対してやるとか、なんかいろんな方法があると思うんですけども。ちょっと集客の方法を考えるといいかなとは思いますがね。

**御館座長：**鳥取県内はまだ空白地域が多いので、それをここから少しずつ空白をなくしていくときに、やっぱりその地域の方にいかに入ってきていただくかっていうところの敷居の下げ方ですとか、その無理やり人が集まっているところ、今お話いただいたようないろいろな方法を使ってですね、何とか空白地域をなくしつつ広げていけたらいいなというところかなと。皆さんで知恵を出し合っていければいいなと思います。ありがとうございます。

それでは就労者のことについて、鳥取県の方では外国人労働者を雇用されている事業主に対する日本語学習支援も商工労働部の方で事業化されておりますので、溝内委員より、差し支えない範囲で来年度の取り組みなどについて、資料もつけていただいておりますのでお願いいたします。

**溝内委員：**県雇用・働き方政策課の溝内と申します。来年度事業につきましては、今議会にこれからお諮りするということでございますけども、案としてご説明させていただきたいと思います。資料といたしましては「新年度の外国人雇用企業に日本語学習支援」というタイトルでございます。労働局の資料もございますので、こちらの方でも少しちょっと触れさせていただきたいと思います。

労働局の資料をご覧くださいますとおり、これは令和5年10月末時点でございますけど

も、そこで人数として過去最高値ということで、外国人の雇用されている事業所も令和2年の716を抜いて、719の事業所で外国人の方を雇われているということで、人数も雇用されている事業所も増えているというのが現状でございます。

お戻りいただきまして日本語学習支援でございます。現在の要求中の事業といたしましては、「外国人材と共に働くとっとり」推進事業を要求しておりますが、その中で日本語学習に係る関連事業ということで、抜粋をさせていただいております。順にご説明いたします。

1 外国人活躍促進企業支援ということで550万円の要求をさせていただいております。現行の「外国人材から選ばれる鳥取県企業補助金」について拡充を行おうとするものでございます。その資料の裏の方見ていただきますと、令和5年度の実施状況をまとめた資料でございますが、拡充の元となる事業というのが、1の「外国人から選ばれる鳥取県」企業補助金ということで(3)にございます通り、今、補助事業が細分化で4つの事業から成っております、それぞれに対して補助経費、またそれぞれに対して補助限度額というような決め方をしている事業でございますが、この中で太枠の日本語学習教材の普及補助であったり、日本語学習支援補助というのが日本語関係の事業で現在行っておりますが、お戻りいただきまして表の方でございます。事業内容の表の方からいただきますと、日本語学習支援事業ともう1つ、働きやすい社内環境整備事業ということで、日本語学習の関係につきまして上の方の日本語学習会の開催でございますとか学習教材の購入等の費用につきましての補助、下の方がですね、社内の多言語化ということで、会社の中にベトナム語とか何とかで表記するようなときの多言語化であったりとか、仕事に必要な語彙のリストとか、そういったものを翻訳するときの補助対象経費ということで、それぞれに補助限度額を決めることなく、全体として1事業者当たり30万円を限度、もしくは複数事業所である場合は50万ということで、企業さんにとっては使いやすい補助金にして拡充をさせていただこうとしております。

2 外国人材受入れ・活用促進セミナー、こちらにつきましては、先ほどもお話のあったとおり、特定技能の分野の方もですね、現在、マスコミ報道によりますと分野が拡大されると。例えばバスやトラック、タクシーの運転手のような自動車運送業であったり、また林業とかですね、木材産業、鉄道、駅員さんとかって聞いておりますけれども、こちら一部新聞報道では、今、特定技能12分野でございますけれども、日本の人手不足を鑑みまして、こちらの4分野につきましても新たに本年度中には決定しようかという報道がございました。こういったいろんな分野で外国人の活用が広がっていくだろうということもございますので、そちら、セミナーの中で業界別セミナーというのを開催することといたしております。その中で日本語関連でできました上から4つ目でございますけれども「やさしい日本語コミュニケーション講座」、こちらについても当課といたしましては、雇用される企業さんを対象に社内です使えるやさしい日本語ということで講座を開催したいと考えております。こちらについても裏の方をご覧くださいますと、2のやさしい日本語コミュニケーション講座の3のところ、これにつきましては、御館先生のご助言等もいただきまして、令和4年度以降は企業



内で使えるやさしい日本語を学ぶ講座となっております。直近の令和5年でいきますと、33名の受講があったということで、令和4年に比べても増えているというところから考えましても、やはり企業の方でもやさしい日本語でコミュニケーションをとることが必要なことだと考えられているのではなかろうかと思っております。来年度につきましても、同様にやさしい日本語コミュニケーション講座を開催したいと考えております。

3 スキルアップ支援でございます。これも直接的な日本語学習支援とは少し遠い、少し外れるかもしれませんが、現在、高度外国人材を中心に企業で働く人が増えているという状況も鑑みまして、その方々のスキルアップを支援するということで、より会社の中で働く中で必要なビジネスの日本語であったり、また日本で必要なマナーについてもですね、今働いている外国人の方にもう少し学び直しと言いますか、さらにスキルを上げていただいて、日本といいですか、鳥取県の中で一層活躍していただければと思っております。これは、県内の日本語学校と連携して実施したいと考えております。

4 は特定の分野で介護分野について挙げております。こちらはですね、介護分野での外国人の活用というのは以前からEPAとかですね、特定技能の制度ができる前から活用が進んでおりまして、そちらにつきましても日本語学習の方の取り組みがございます。大きく3つに分けております。1つ目は介護福祉士の養成施設におけるカリキュラム外なんですけれども、なかなか留学生の方の日本語学習に苦勞しているところもあるようでございまして、課外授業に必要な経費を支援しようとするものでございます。これは来年度の新規事業ということでございます。2つ目は、介護の受け入れ施設、県内にもたくさん介護施設ございますけれども、どちらかもしくは市町村を対象にいたしまして、外国人の介護職員と日本人職員の相互のコミュニケーションの支援に係る経費を支援しようとするものです。また、3つ目の外国人介護人材の介護技能・資質の向上を図るために専ら介護についての知識に特化したものとしてですね、学ぶような研修をするということでございまして、矢印で受けておりますけれども、いろんな専門的な知識を学ぶ中でも日本語の研修ということが必要であれば、そちらの方も支援対象とするということで、4番につきましましてはちょっと福祉部門に特化したような事業ではございますけれども、上の1から3につきましては、各分野共通でですね、県内で活躍される外国人の方を対象に、そこに雇われてる企業になるんですけども、ご支援しましてですね、県内に働かれてる外国人の方が長く、日本の鳥取県ですね、企業の方で働いていただけるようにということを目指して、支援をしていこうと思っております。以上です。

**御館座長**：ありがとうございました。今のご説明について何かご質問などありましたらお願いいたします。

**本角委員**：はい。確認ですけど、この数字の金額の後のかっことは、令和5年度の金額ですか。

**溝内委員**：はい、おっしゃるとおり令和5年度の予算と対比して書かせていただいております。

**本角委員**：では、そこが0のところは来年度新規ということによろしいですか。

**溝内委員**：はい、おっしゃるとおりです。

**本角委員**：すいません。3 のスキルアップ支援の高度外国人材には特定技能は含まれますか。

**溝内委員**：基本的には、技術・人文・国際業務とかを対象にしているんですけども、おっしゃるとおり特定技能の方にもですね、ちょっとメニューを見ていただかないと働かれてる企業と合うかどうかってのはさておき、別に排除することもしませんので、有効であれば引き受けていただければと思っております。開催方式についてはオンラインで開催したいと考えておりますので、ちょっと善し悪しもちろんあるんですけども、できるだけ県内の皆様にご視聴いただこうと思えばと（オンラインの方がいい）いうところで、オンラインの方で開催したいと考えております。

**本角委員**：平日とか週末とか、

**溝内委員**：今想定としては、平日のとか。要は職場の時間外、夜とかです。

**本角委員**：あと、もう 1 つ、先ほどあったやさしい日本語コミュニケーション講座、今年度 33 名ということだったんですけど、実際これは会社の担当者とか、会社の方たちが受けてるのはこの 33 人全員がそうなのか、それとも行政の方が受けたとかそういうのはありますか。

**溝内委員**：行政の方もおられたと思います。

**本角委員**：実際、どれぐらい企業の方が受けられたのかなと。

**溝内委員**：ちょっと確認させもらっていいでしょうか。画面をオンライン越しで、ロールプレイといいますか、ワークのところの画面を見てみると、実習生の方が日本人の担当者の方と一緒に学ぶようなところも見受けられましたので。

**本角委員**：企業の方とお話すると、やっぱり勤務時間内講座だとか会とかに出るのは難しいとあって結構言われるので、実際どうなんだろうなというところがありまして。

**溝内委員**：オンラインがいいという声もあったりして、そうですね、なかなか難しい。

**本角委員**：本当に境港は端っこなので余計に移動に時間がかかることを思うと、オンラインだったら合間に見られるかなっていうのはあるかもしれない。大分オンラインは、普及してきたので。

**中東委員**：4 の介護分野のところで、実は今岡山県も、介護人材外国人が増えているんですけど、特に岡山県で県南は人口も多くて、学校ももちろん多いんですけど、県北はやっぱり介護人材がなくて外国人が多いんですけど、やっぱり結構日本語能力も高くてもやる気がある、すごくモチベーションが高い人が介護分野って多いので、日本語能力が高くなればみんな出ていくんですけど、やっぱり鳥取県も同じような感じなのか、ちょっとその辺の何か見通しというか。もう本当にそれが悩みで、一生懸命育ててもみんな出て行くんだよね、時給のいいところについていう感じで、なかなか介護は結構厳しくてですね、特に県北だからおそらく山陰に近い側なんですけど、そのあたり何か今後の見通し、介護はすごく重要だと思うんですが、何かそれを見据えた上でこういう計画がやっぱり必要かなと思うのでそのあたりを参考までに教えていただければ。

**溝内委員**：いろんな処遇の面とかにも及んでくるかと思ってまして、そこは岡山県の北部とは同じ状況かなと。やはり介護の方って、日本語能力試験の N2 以上が必要だったりとか他の外国人労働者に比べて日本語のレベルが求められるのがあったりして、介護の場合、一度留学で日本語学校に入ってから、そのあと 2 年間介護福祉士の養成施設に通って、そのあとにその介護福祉士の施設に勤めて、介護福祉士の国家試験を取って勤めていくっていう、そういう流れがあるもんですから、本当に皆さん日本語はどんどん上手になっていくということはありますけど、施設から見たら同じ問題を抱えてると思います。高い処遇を求めて都市部の方へ。

**本角委員**：この技能実習制度が育成に変わって、転籍の要件にその日本語レベルの N4 とかが付くって聞いているんで、そうすると、日本語を育てると転籍しちゃうっていう恐れがあるっていう、なんかちょっとね。

**中東委員**：本当にそうなんです。だから、本当に今介護人材が、特に過疎地域でとても問題になっていて、どうしたらいいんだろうなっていうことなんですけど、だから当然そういった出ていくかもしれないけど職場環境として整えるっていうのが 1 つ。例えば家族を呼び寄せたいっていう場合に、さっきグエンさんのお話にもありましたけど、賃金だけ見たらやっぱり地方は勝てないですよ都会に。だから、それに勝る要素として、広いお家があるよとか、自然が豊かだよ、畑で野菜育ててねとか、何かやっぱりそういった支援がないといけないなっていうふうに思うわけですよ。そうした場合に、1 つはやさしい日本語をなぜ市民の人にとってというのは、1 つは生活レベルでもっと日本人が迎え入れるような地域づくりをして欲しいということに関わってくる。それは子育てとか教育の関係もまさにそうなんです。だから、何かこう日本語教育だけに特化すると何でまずいかっていうと、やっぱりそこかなあという気はするので、何か総合的な視点で、どうやったらこの人たちに残っていただけるか、多分介護の事業者の方も大変だと思うんですよ。せっかく育てたら出て行って、介護だけに限らず企業さんもそうだと思うんですよ。岡山市も結構小さな零細企業は多いので、もう皆さん同じようなことをおっしゃってて、私が（日本語教室を）やってる総社市なんかは、外国人が外国人のコミュニティを作ってるので居心地はいいんですけど、やっぱり出ていくんですよ、岡山市に。なぜかって言ったらもうちょっとした賃金差ですね。岡山市の企業に行けばちょっと賃金が高いっていうのと、好きなときに総社市には遊びに来れるんですよ。だからおいしいところ取りで、そういうね何か非常に地方都市のなかなか難しい悩みがあるので、そう考えたときに、もちろん今までの計画もいいんですけども、もうちょっと先の 5 年後とか、もうちょっと先の人材養成を考えるとということと、あと地域づくりですよ。なんかそこがトータルで考えらるといいのかなというふうには非常に思いました。

**グエン委員**：鳥取県内在住のベトナム人コミュニティのフェイスブックがあるんですが、その中には、ちょこちょこ投稿ありますよ。ベトナムの送り出し機関の求人票を誰かが投稿して、この会社はどうですかとかと。いろいろ見たら 16 万基本給、15 万と。鳥取県に住んで

いる人はもう辞めた方がいいんじゃないとか冗談で言ってます。だから何か本当にもうちょっと魅力があったら。私、もう1つはちょっと意見なんですけど、例えばやさしい日本語のところは、医療関係のところがあったらいいなと思います。例えば、私の知っているベトナム人は、彼女は最初咳とか痰とかがでてきて、会社の人に病院に連れてもらったんですよ。その時は通訳さんがいて肺炎と診断されました。薬をもらって2週間飲んだけど治ってないんですよ。でも通訳さんが辞めて、社長にもうちょっと体調が悪いから病院に連れて行くと。社長は、今会社忙しいから連れていけないと、もうちょっと待ってという言い方ですよ。でも彼女は日本に来てもう3年目ですよ。日本語はある程度できると思いますが、ただ、病院に行くのは怖い、日本人と直接話をするのをちょっと遠慮する。だから、もし何かそういう（やさしい日本語の）研修があって、医療機関でやさしい日本語を要望したら何とかできると、なんかそういうその場面を作る、何かロールプレイがあったら、みんなはもっと自立できると思います。私それを聞いて、もう2週間も3週間も肺炎ですごく悩んでいけないのはいやですね。ただもし何か研修とかがあって、こんな（やさしい日本語ができる）イメージがあったら当然2回目や3回目は1人で行けると 생각합니다。

**中東委員：**総社市では日本語教室でやっています。病院と一緒にあって病院の先生に協力していただいて、日本語教室で最初にちょっとシミュレーションで、最初にその病院見学に行く前に病院で使う言葉とか、いっぱいいろいろな科がありますよね、内科とか外科とか。こういう言葉を学んで、あと一連の流れ、病院に行つて問診票を書きます～先生に言います～診てもらいます～薬をもらいますっていう、そのあとで病院に実際に行く。そういうのはすごく必要ですよ。

**田村委員：**一度、倉吉の厚生病院から日本語教室にアンケートがきたことがあるんですけど、返した後どうなったかはわからないけど、ただやっぱり、今言われたように病院の方も多少考えてるのかなと思って。どういう言葉がいいでしょうか、改善したほうがいいでしょうかと聞いてきたことがあって。その後の反応が全然わかんない、どう活用されたかはわかりません。

**中東委員：**健康診断でも結構そういう問題あるみたいで、ちょっとどこだったか忘れたんですが、高校生に話をしたときに、何かこういうことで話を聞いたことがあるか意見くださいって言ったら、その聞いていた高校生のお母さんが保健師さんで企業の健康診断をしたと。その時に、身長を測ると体重は今一緒ですよ。身長を測るとき、私たちは背中に向けて立つのにその人は前から突っ込んでいって、その人はこの機械のことを知らなかったんだろうかと思いました。

**グエン委員：**ベトナムは多分前からですよ。

**中東委員：**だからですね。この人は健康診断を受けたことがないじゃなくてね。

**グエン委員：**決まってないのでどちらでも。背筋を伸ばしたらそれでいいんですよ。

**田村委員：**それって、みんなが知っとかないと、国によってちょっと診断の仕方が違うこと。

**中東委員：**だから言葉もそうなんですけど、その体験をするっていうのがすごく大事だと思います。

って。総社市も日本語レベルが低い人がとても多いので、言葉も大事ですけどやっぱり経験ですよね。知っていれば、何かあっても動けるので、またそういう活動を取り入れればいいですよね。

**御館座長**：そういう各分野の方がやさしい日本語を使っていただくっていうことと、外国人の方にもそういう取り組みがなされてるんですよっていうことも知っていただいて、今ご提案いただいたように日本語教室で実際に体験を増やしていく。いくつか取り組みは境港の方でもいろいろありますよね。消費者何とかの方に来ていただいて。

**本角委員**：そうですね。同じ課の中に消費生活相談室もあって、情報も入ってくるんですけど、フェイスブックとかで同じベトナム人の人が上げてるのを何か買ったけど、Wi-Fi かなにかの契約だったと思うんですけど解約がうまくできないみたいなのがあって、企業を通して相談があったので、せっかくなのでそれを日本語クラスで、こういう事例があるので気をつけましょうねって。うちの相談員にもその時にはボランティアで来てもらって教室でちょっとお話をしてもらったってことはあります。あと多言語問診票も病院の方に医師会を通してお願いをして、実際使ってくださっているところもあるみたいですし、全然のところもあるし。私のかかりつけ医さんのところに行くと、たまにやっぱり先輩に連れられて実習生が来たり、別の中国の方の予防接種に行ったら、これあるよってちゃんとこちらが配った多言語問診票が出てきて感動したこともありますし、音声のポケットクを入れてくださったところもあります。

**中東委員**：いろいろやってくださってるところはありますよね。

**本角委員**：やっぱり日本語教室が入口というか、多くの外国人の方にそういう情報を知っていただくっていう場所にもなり得るっていうことですね。こちらとしてはいろいろ情報を伝えたいのですが、そういうテーマをするとやっぱりあんまり面白くないっていうのがあって、もうちょっと若い子向けのテーマがいいと言われました。あんまり押し付けても駄目かなと反省もあります。

**御館座長**：でも情報だけだったら SNS とかこれから作るプラットフォームとかでもご紹介していけると思うので。

**本角委員**：この前も津波があったので、他のテーマだけど最後にちょこっとハザードマップを配って自分のところを確認してねって。みんなで見たりするようにおまけでつけるぐらいじゃないとちょっと難しいかなって。難しいんですよ、交通安全とか災害とかは難しいみたいで。話自体も難しいし、必要なのはわかるけど身に差し迫ってないしで、どうしても飽きた感じがするので、おまけぐらいがちょうどいいかなと最近はやっぱちょっと思ってます。

**中東委員**：境港市さんは毎回こういうのをやりますよって言うんですよね。私たち（総社市）は言わないんですよ。あえて言わないでもう来たら必然的に学ばせるっていう、そうしないと来ないですよ、テーマを出してしまうと。でも確かにそのとおりですね、飽きちゃうから。

**御館座長**：他にこの就労者向けの事業について、質問などありますでしょうか。

**岩本総括コーディネーター：**すみません、事務局から質問で申し訳ないんですけど、よく企業の方からこの事業の活用ができるんじゃないかというご相談も受けるものですから確認させていただきたいんですけども、例えば特定技能の1号を受けたい、なりたいと思う人は、その技能の技能試験と日本語能力試験ありますよね。日本語能力試験の場合は特定技能1号だとN4以上、J Fの6レベルだとA2以上という縛りがあると思うんですけども、例えば事業主さんが特定技能にあげたい人たちの日本語として、例えばJ L P TのN4合格を目的としたプログラムをされる場合、この支援制度が使えるものでしょうか。

**溝内委員：**日本語能力の資格試験合格に向けた勉強ということですか。それはお使いいただけます。

**御館座長：**前回もなかなか利用実績が・・・ということもあったかと思います。なるべく多く利用していただければと思います。何か広報とか周知とか工夫されるようなことは。

**溝内委員：**はい、努めて参りたいと思います。セミナーのたびとか、ありきたりですけどホームページ等はなかなかご覧なる・ならないがあると思いますので、その関心のある企業様に直接届ける仕組みなど、どうがいいのかになって、今はセミナー、いろんなセミナーの中でご紹介をするようなこともあるんですが、他にもちょっと効果的な方法があれば。

**本角委員：**商工会議所のメルマガとかは活用しておられますか。境港市はメルマガとか出してるので、月2回ぐらいですけど。

**溝内委員：**会議所にデジタルデータなんか送ったらいいんでしょうか。

**本角委員：**メルマガは、ホームページにリンクが多いみたいです。こういうのあります、詳しくはこちらみたいなことが多いみたいです。

**溝内委員：**ちょっとまたいろいろ検討してみます。

**御館座長：**他は何かありますでしょうか。あと今日は岡山県の事例について新聞記事も付けていただいておりますので、中東委員の方から共有していただけますでしょうか。

**中東委員：**たまたまですね、このカラーで印刷していただいた記事は2月2日に出て、この日の一面が外国人人口最多っていう記事があって、それは推計人口なんですけれども、多分国勢調査かなんかかな。推計人口で、2.9万人と確かこの記事のどこかにあったような気がしますが、実際には3.2千人ぐらい去年の末には外国人人口いたんですけど、いずれにしろ増えてるっていう状況の中で、なぜこの日本語教室の話がここであって出てきたかっていうと、来年度岡山県がいよいよというか、ここの鳥取県と同じ文化庁の総合的体制づくりの推進事業に申請すると予算が上がったんですね。それで、山陽新聞の記者さんからお電話があつて、そういう流れで取材があつて2日に出ました。地図が左上にあると思うんですけども、岡山県って大体、地域でいうと県南と県北っていう感じで人口の分布とか、様々な地域が大体南部と北部ですごく違うので、そういう言い方をよくするんですけども、緑の地域が日本語教室がある地域で白がないところなんですけれども、白いところは基本的にあんまり外国人がいないところなんです。緑のところもすごくまばらではあるんですが、一応ですね県南は何となく日本語教室はあると。ただ問題なのは、ほとんどがボラ

ンティア教室で、自治体がお金を出してきちんとやってるのは総社市以外はないというような状況です。美作市がこっちから見ると右上っていうのかな、西粟倉村の下のところが美作市なんですけど、ここはベトナムとの関係がすごく強い地域なので、確か自治体が結構力を入れてやってはいるんですけども、全県見たときにはまだまだ空白地域もあるし、そもそも人材がいなくなっている、ボランティアの人が高齢化しているっていうふうな話が書かれているところになります。その真ん中あたりのボランティアっていうところに、ちょうど写真の下のところですね。40年にわたってと書いてあるところですけど、おそらく岡山県で本当に最初ぐらいにボランティアグループを立ち上げられた浦上先生が83歳で、こういう方がいまだに支えていかなきゃいけないっていうふうな状況があるので、行政が早くちゃんと体制づくりをしなきゃいけないと言い続けてはいたんですけど、なかなか岡山県も難しいところがあって、でもようやく事業を立ち上げるというふうなところなんです。その1個下ですね、調整会議新設っていうのは、今、私の方は岡山市の総合調整会議の委員なんですけれども、県の方でも設置をするということでコーディネーターの候補がいてとか簡単なことしか書いていないですけども、実際のところ私は県にはあまり関わってないので、よくわからないところなんですけど、取材があったので答えとしてはその左端で写真の左下なんですけれども、共生社会への理解を促進するということと、一番やっぱり行政の方に響くところっていうのは人口減少とまちづくりのビジョンに外国人を考えていくってことですかね。記者さんの質問というのは、なぜ行政がしなければいけないのかっていうところだったので、その背景を説明して、結局ただ単に日本語を勉強するだけでは到底生活はしていけないという背景と、それから、例えば、市の施設を使うとか県の施設もそうなんですけど、外国人って知らないんですよ。こういうところにこういうものがあるとか、けど当然その権利はあるわけです。だからそういったことを周知するにも、やっぱり行政が関わらないといけないだろうということで、こういう話をしました。あと、これは岡山県に関することなんですけれども、今、私のところでは岡山市の総合調整会議は私が委員長で、会議のメンバー12名います。プラス行政の方なんですけれども、こうした日本語教育事業を進めるってことも1つなんですけど、さっきも話の中でどうやったら市民に周知できるかということが出てきたと思うんですね。最初、私も第1回的时候は、とにかくコーディネーターが決まってくなくて、第2回目的のときにコーディネーターが決まったっていう状況なので、その時に1回新聞社に来てもらいました。その後ですね、岡山市の日本語教育基本方針策定ということで、12月にパブコメを出して、もうそれは終わったんですけども、12月にもう1回、そして1月に日本語教育基本方針というのが岡山市の多文化共生推進プランの下位方針に位置付けられるので、多文化共生推進プランの改定ということで新聞に出してもらいましたので、これまで計3回新聞で報道されています。意外と見てくださってる方が多いので、これはもうすでに岩本さんにもお話したんですけども、何かの機会に鳥取県はこういうことやっていますよってメディア報道とかあったらいいなというふうに思うのが1つと、もう1つはですね、ちょっとこれあくまで予定ではあるんですけど、2日前に東広

島にあるひろしま国際センターで、日本語教育学会の中国支部集会をやりました。学会の本大会っていうんですかね、それと幾つか各地域の支部集会とか支部活動っていうのがあるんですけれども、できるだけ地域の日本語教育のことについて取り上げようというので、昨日は広島県の取り組みということで、パネルをしたんですね。来年度私も委員が最後ということで、岡山大学で開催予定なんですけれども、そこで岡山市の取り組みのお披露目も兼ねてパネルをする予定にしています。聞く人はどんな人かちょっとわからないんですけど、やっぱりそうやって何かイベントすることで、ポスターを作り周知もするので、何らかの形で今すぐは無理だと思うんですけど、何年後かでも何かこう市民を交えたなんていうんですかね、シンポジウムなりフォーラムなり、何か少しそういうことを考えたらどうかというの、ついでのご提案です。

**御館座長**：ありがとうございます。岡山県、岡山市の事例につきまして何かご質問がありましたらお願いします。

**田村委員**：1回、うちの倉吉日本語教室も二、三年前にでかく日本海新聞にでたことがあるんです。私の知ってる人はすごいことやってるねっていう程度で、大きな広がりっていうのはそんなに感じなかったんですけど、日本語教室を地元紙に取り上げてもらったっていうことはよかったかなと。こういう慈善グループとかボランティア団体が、うちの場合は倉吉市が入ってるけどこういう地域でこんなことをやってるっていう1つのアドバルーンにはなったかなと。今まで誰も、倉吉市民であろうと、そういうことは知らなかったのが、新聞にぱっと載ったっていうことで一瞬の輝きはあったというそんな感じ。今、時々人権センター文化だよりっていうのがあって市内に回覧の形で回ってますので、時々そういうことは出てますが、常に小さいアドバルーンでもあげておかないとわかんないかなと思います。こうやって地元紙にでかいアドバルーンが上がるとまたちょっと市民の関心が違ってくるから。

**本角委員**：まだ実現するかわからない企画段階らしいですけど、昨日B S Sの方がうちのクラスにまだ取材じゃないけど見に来られて、その方が興味があるらしくて企画をあげたいみたいで、どうぞ見てくださいと。

**田村委員**：それってありますよね、マスコミの担当者が興味にあるかないかで。うちに日本海新聞が来た場合も、(記者の)彼が興味があったんでうまく取り上げてそれでそのシリーズ、県内の外国人のシリーズをずっと組んでいったそうですね。その一角でうちがこうばーっと出たっていうことがあって。

**本角委員**：まず全国ニュースで今回の技能実習の見直しとか、全国的に大きなニュースがあるとそれに引きずられてっていう感じではよく取材にこられます。

**中東委員**：だから、あの記者さんから一応、何か大きな事件があったら吹っ飛ばしますって言われたんですけど、吹っ飛ばなかったんで結構大きく載せていただいてそれはよかったんですけど、今でも岡山はもう本当に15年ぐらい前だったらほとんど無視みたいな感じでしたからね。やっぱり、もう大分時代変わってきたっていう感じがするので、小さなアドバルーン



ソってやっぱり重要かなっていうふうに繰り返してほしいですね。

**井嶋委員**：いや、外国人いないと思ったら実はいたんですよ、将来増えるかもしれませんよっていうところにいかに日本人の意識を変えてもらうかっていういい案はないんですけども、そこを繰り返し役場なんかを通してですね、課題意識、困ってる子どもがいるんだよと、お母さんがいるんだよっていうことを、つぶさにそのリアリティも含めて伝えていくしかないのかなというところで、みんなを巻き込んでいくっていうのをいろんな媒体を利用しながらやっていくのかなあ。それは記者の関心があるかないかにもよりますけれども、興味を出してもらえるようにね、ちょっと勉強していくというのもいいのかなと思ってます。

**本角委員**：セミナーとかって毎回プレスリリースとかされているんですか。今回の日本語の研修とか。今回の研修はちょっと限定的なでしたけど、他のいろいろなセミナーとかっていうのも、プレスリリースとかは。

**井嶋委員**：していく時期が来てるんだろうと思います。

**本角委員**：うちは日本語教室はプレスリリースはしてないんですけど、この前の交流会1月28日にしたやつとかプレスリリースしたので、新聞が読売と日本海、あと中海テレビが取り扱ってくれたので。

**井嶋委員**：なんでもかんでもしたらいいってわけじゃないけども、やり方をね、戦略をちょっと考えなきゃいけない。やっぱり知ってもらわないと来てもらえませんが、それ知ってもらってどうするかというふうにやっぱり、今行政であれば当然考えなければ、改めて今思いましたので、そこは工夫をしていきたいと思います。ありがとうございます。

**御館座長**：特に今は育成就労に変わろうとして制度変更もあって、そういう意味ではマスコミの方も割と興味があるんじゃないかなと思うので、この機会を使う点で広報とかもしていきたいですね。他に何かありますでしょうか

ではないようでしたら議事につきましては以上で終了いたします。ありがとうございます。

**松本事務局長**：皆様からの活発な意見交換によりまして、議事が順調に進みました。せっかくの機会でございますので、この機会に皆さん顔を合わせている機会に引き続き関係する事項についてご発言いただけたらと思います。ご自由にご発言いただけますでしょうか。

**本角委員**：お願いというか、教育委員会とかでは、このやさしい日本語を先生に対してというのは特にないんでしょうか。先生は皆さんすごい忙しそうで、やっぱりその外国人のお子さんとかおられて、ちょっとこの前もいじめとかの問題で相談があったりしたんですけど。子どもだけじゃなくて、子どもはしゃべるけど親御さんはしゃべれないところとかも結構ある。それで先ほど言われたみたいに通訳ってなかなか見つからないですし、現場の人たちがやさしい日本語に慣れてないので、本当こんな簡単なことだったらやさしい日本語ができれば現場で説明できるのかなと思うこともあるんですけど。義務としてそれこそやってもらわないとやっぱり皆さんに来てもらうのはとてもじゃないけど難しいところがあるの

で、そういうのをちょっと先生、それから生徒さんが若いうちに触れてもらおうと、柔軟でそういうのもちょっと考えてもらえると嬉しいなということがあります。

**安本委員**：先ほど岡山県全体のお話もありましたけれども、実際に鳥取市内の学校も同じような状況です。その逼迫必然性がないと、そこに対応する一步を踏み出さない。これはまずいぞっていうことで進んでいくっていうのはエリア的に鳥取大学がある関係で湖山エリアは、そこはすごく悩んでいますし、中山間地の部分は全くいないのでそういう意識がないっていうのがありますので、その必要性が生じて初めてこう動いていくっていうところがありますので、教職員全体に対してこの日本語支援の必要性をおろしているかっていうと教育委員会としてそこまでできてないっていうのが実情です。その子どもに対してもそうなんですけど、保護者さんが落ち着くと子どもは学校に馴染んでいくっていうのが見えてるので、そのやさしい日本語教室っていうのを開催していただいている部分ってのはすごく大事な取り組みだと思うんですけども、日常的に保護者さんがそこに今学べるなんていうものが、プラットフォームって話が出ましたけども、あればいいな。鳥取市でいくと、もしかしたら地域の子どもの食堂とかそこに行けばテーマはないけどしゃべれるみたいな、そういう会話ができる取り組みっていうのも根強くしていく必要があるな。当然、教員もそこに必要があれば出ていくわけで、その中でここに住んでよかったなっていう気持ちも芽吹いていって、給料が高いところに出ていくとか、本当に繋がらないこともあるのかなあというふうに思ったりしていますけれども。

**田村委員**：県外に出ていくっていうのは、1つはコミュニティの大きさもあるんじゃないかな。

**本角委員**：それもあると思うんですけど、特定技能で引っ越し子とかに聞いてみると、やっぱり給料とか都会がいいですって言われると、日本の若者と一緒で、もうどうしようもなくなってしまうんですよ。

**中東委員**：もう同じ、同じ。

**本角委員**：逆に入ってくる人たちもいるんですよ。境港だとすごく増えてる。今、特定技能は100人超えてるんで、入ってくる人たちもいるんですけど、出た人たちがちょっと戻りたいなとか思ってもらえるように頑張るしかないのかなと思いつつやっちはいるんですけど。

**御館座長**：都会に疲れてまた帰ってくるとか。

**本角委員**：遊ぶところがありません、お金はたまるけど。

**中東委員**：結構今は少し年上のベトナムの方とか、かつて日本に技術者でいて、もう1回国に帰っていくという方がおられて、やっぱり家族がおられる方って割と田舎好まれるので、ちょっと狙い目を定めるっていうのは1つの方法かなと。

**井嶋課長**：ちょっと、もうほとんど移住定住。コロナの期間中はやっぱり30代40代のUターンIターンが増えてました。やっぱり、子育て環境だったり今おっしゃるちょっと都会に疲れてきて人生の転機でということだったり、そういうきっかけで田舎に帰ってきま

すって結構多いんですよね。やっぱり今おっしゃったように、要はいつでも待ってますよというところで、今、持ってる特性をしっかりとアピールしていくしかないのかなというのを今聞いてて思います。お金では買えないものはあるんだよっていうところがいえるかわかりませんが、でも用意して待ってるっていうのがいるんだなと思って聞いてました。

**中東委員**：あと岡山市の今、私たちもそのモデル事業どうするかっていうときに、私自身はやっぱり広島出身なので、岡山市のよさを生かした事業を中に取り入れたらどうですかってのはいつも言っていて、例えばやっぱりスペース広いんですよね、田舎なので。大きな運動場とかもあるし、若い技能実習生とかサッカー大好きで、そうするとベトナムのサッカーチーム作ったりしているので、何か都会にはできない、ここの良さみたいなのを事業に取り込んでいくっていうのをやったらどうかってのはいつも言ってるので、鳥取でサッカー場があるかどうかよくわからないんですが。

**本角委員**：言っていましたよ、サッカーできる場所を探してますとか。ただ、ほかが全部押さえて、隣の米子市にちょっと使えるところあったので、そこを紹介したんですけど。

**中東委員**：やっぱり労働で来てる人ってなかなか体を動かす、何ていうんですかね、ストレスを発散する機会があまりないので、日本語の勉強もいいけれども、なんかちょっと体を動かすアクティビティは結構いいかなというふうに思いますけどね。

**田村委員**：うちに来ているベトナムの方はやっぱりさっき言われたように、実習生で1回来て、再度永住という形で、奥さん呼び寄せて、さっき最初に言った子どもが入学するっていうそういうちょっと年をとった人。若い人はやっぱりこれは外国人・日本人関係なしに、給料のいいところ、目先の給料のいいところ。結局、田舎の宿命だろうけど、ホテルでコストを使って育てても、大阪のいいホテルに試験で受かって就職してしまう。そうすると、そこはそれぞれのコミュニティが大きいので、そこでうまく交流してるみたいで、奥さんもそこでうまく生きてるみたい。倉吉市に来てスーパーとか、しゃべれないから言葉を使わない場所で働いて、多分母国の仕事を考えればなんで外国でこんな仕事してるんだろうなと思ってんじゃないかなと思うけど。

**溝内委員**：うちの方も鳥取暮らしを進めていったらいいんですけども、都会で暮らすときのお金のシミュレーションを来年度の予算なんですけどちょっと多言語で。

**本角委員**：美しい景色とともに。皆さんすごい写真撮られるんで、綺麗なところで、インスタ映えするようなところに皆さん行かれるから。

**田村委員**：県全体レベルで1回そういう自治体間の話し合いっていうのは必要なのかなと。

**本角委員**：多分、多文化支援ネットワークっていうのがあるじゃないですか。町村こないところも多いですよ。

**田村委員**：それがうまく生かし切れてるかどうかっていう。

**中東委員**：それぞれの自治体、岡山県北部の奈義町とか、町なんかは何で合併しないのかなって言ったらやっぱりそれなりに財源のもとがあって、だけどやっぱり人は減るので、すぐ子育て、手厚いお金を投じた政策が有名ですよ。やっぱりやっておられるので、なんか

ちょっとそういう意味では、外国人の視点ってのは持ちにくいところはあるんですけど、それで人口を増やす努力はされてるので、それが報道されると、ああそうなんだみたいなことになるので、ちゃんとかうね、県民の方に周知したりとか。もうちょっと鳥取の魅力を皆さんから発信して。岡山にいて、鳥取に行くんだったらぜひカニを食べて欲しいという、そういう県外者だからこそわかる魅力みたいなんですか。何かもっとこう外国の人にもわかってもらえるといいんじゃないかなと思います。

**松本事務局長：**ありがとうございました。いろんな意見をいただきました。参考になるヒントをいただきましたので、令和6年度の事業計画案、これからまとめまして国に提出いたしまして、採択いただいたら、もう本格的に2年目に入るんですが、そういった視点、多角的な視点、或いはもうちょっと先の、5年の計画期間はいただいています、5年より先の鳥取県を見据えながら考えていかないといけないなということを改めて思いましたので、取り組んでいきたいと思います。

引き続き、来年度も会議を年2回予定しております。次回は5月ごろになるかと思います。そこに向けまして、また近づきましたら、日程等ご案内させていただこうと思います。それまでにまた、ヒントとか、こういうことがあったというようなことを、またお持ち寄りいただいて、次に活かしたいと思いますので、引き続きよろしくお願いしたいと思います。

それでは本日の会議は以上で閉会とさせていただきますと思います。

ありがとうございました。